

# 千葉国労

# 千葉労働者こそ誠島田の組織破壊者だ！

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

□□□□□□□□□□

津田沼支部における裏切り分子島田誠らに対する糾弾・追及行動は日に日に高まっている。動労「本部」反動集団の「防衛」動員の連日にわたる労働組合としての一線をふみはずした思い上がった行動は、逆に職場労働者の怒りの火に油をそそぐ結果になり、島田誠らの裏切り密通分子は職場の中で完全に孤立化してしまっている。「千葉再建」の為に称して全国からかき集めて津田沼電車区に押し入ってきて、動労千葉津田沼支部組合員に相手にされず、暴力的介入も職場労働者の怒りに粉砕されている。結局「再建」どころか島田らの「防衛」にきゆうきゆうとしているのが今日の動労「本部」反動集団の真実の姿なのだ。

□□□□□□□□□□

## 島田誠のデッチ上げ「密告」で国労分会へ組織介入 九月三日津田沼電車区

この事態にますます危機感をつのらせ、いらだつ動労「本部」反動集団は、ついに国労津田沼電車区分会に対し組織介入を行ってきたのである。

九月三日一七時頃、室井(津山大会で津田沼支部長に暴力を振った張本人)にひきいられた反動分子達は、退区途中の国労組合員を電車区構内できりかこみ、ひとり一人の顔写真を無差別にとるといふ許しがたい行為にはしかったのである。この許しがたい行為に抗議した国労組合員に対して室井以下の「本部」反動分子達は「八月三十一日『本部オルグ』団に暴力を振った国労組合員がいたから顔を割り出す為に写真をとった」等とデッチ上げ理由をもって居直ったのである。動労をセクト的に私物化し、暴力とデッチ上げをもって労働者を支配できると考える「本部」反動集団ならではの行為であるといえよう。しかし、われわれは国労にまで組織介入を行うなどという極反動攻撃を許すことはできない。津田沼の地において、今日まで、長い間国労と共闘関係を築き、共に闘ってきた組織である以上当然のことである。ましてや、「本部」反動集団による国労組織介入を行ったキッカケがわが動労千葉を裏切り革マル密通分子になり下った島田によるデッチ上げと密告によってひきおこされたことが明白である以上なおさらである。

## 島田誠こそが職場慣行破壊者だ

島田は単なる動労千葉を裏切った反動密通分子にとどまるものではない。島田の昨年一〇月以来の行動をみれば明らかかとおり、動労千葉、国労千葉の最大の闘いの拠点である津田沼電車区の両組織を反目させ、破壊して、両組織が血の滲むような闘いで闘い続けてきた職場慣行を破壊する為の動労「本部」反動集団の手先であることを怒りをもって糾弾しなければならない。

島田は、**【第一に】**昨年一〇月、動労組合員であるにもかかわらず、国労の役員選挙に介入し、

動労支部との共闘体制をブチ壊す策動を行ったのではないか。

**【第二に】**島田は、国労選挙に介入し、国労内に組織攪乱を起しながら、こんどは「動労に迷惑をかけた」として一方的に動労に脱退届を出し、国労に加入届を出すというハレンチな行為を行い動労を裏切り、国労の組織攪乱をはかったではないか。

**【第三に】**動労が脱退届を受け入れないとみるや、説得行動から逃げまわり、組合費納入を拒否し、「俺は組合費を納入していないから動労は自然脱退だ」と昨年一二月から四月初旬まで職場をふれ歩き、「本部」反動集団の千葉排除策動に抗して闘う動労千葉の闘いに背をむけていたではないか。**【第四に】**4・17津田沼支部長を頭がい骨骨折にまで至らしめた襲撃事件以降、島田は、自らが行った行為を自己批判し動労千葉津田沼支部結成大会に出席し、共に闘うことをちかつかたにもかかわらず、またまた職場の仲間を裏切り、「本部」反動集団のもとに逃亡をしたではないか。

一にぎりの裏切り分子を粉砕し、闘う職場を守ろう！

こうして組織破壊攪乱に失敗し、**【第五に】**「本部」反動集団の手先になり下がった島田は、今日、反動分子らと口をそろえて「津田沼の職場管理体制を強化しろ」「早じまいはやめろ」「点呼に出ろ」「三項八号を適用しろ」等と当局に申し入れ、動・国労共闘で闘い続けてきた職場慣行破壊を画策しているではないか。

動労千葉、国労千葉のすべてのみなさん。これが島田の真の姿なのだ。

「潜入革マル島田」こそ「本部」反動集団を職場にひき入れ、職場を混乱させ、職場慣行を破壊し国労組織介入を計り、共闘体制をぶちこわさんとする許すことのできない裏切り分子なのだ。このような裏切り反動分子を糾弾、一掃して、動労大改革へむけさらに奮闘しよう。